

## 平成29年度第1回別府市総合教育会議議事録

1 日 時 平成29年11月13日  
開会 午前11時 閉会 午後0時

2 場 所 別府市役所1階 レセプションホール

### 3 出席者

(構成員) 別府市長 長野 恭紘

〈教育委員会〉

教育長 寺岡 悌二

教育委員 福島 知克 (教育長職務代理者)

教育委員 明石 光伸

教育委員 高橋 護

教育委員 小野 和枝

青山中校長 福田 正気

北部中校長 平野 俊彦

南小学校長 森 日出夫

(事務局) 総務部長 檜山 隆士  
総務部総務課長 小野 大介  
総務部総務課参事 本田 壽徳  
総務部総務課主査 原口 聡子  
教育参事 湊 博秋  
教育次長兼社会教育課長 高橋 修司  
教育政策課長 月輪 利生  
学校教育課長 姫野 悟  
教育政策課参事 末光 淳二  
教育総務課課長補佐 志賀 貴代美

### 4 議 題

- (1) 確かな学力の定着について
- (2) その他

## 5 議事の経過

### ○本田総務課参事

定刻になりましたので、これより平成29年度第1回別府市総合教育会議を開催させていただきます。

最初に、長野市長に御挨拶をお願い申し上げます。

### ○長野市長

皆様おはようございます。平成29年第1回の総合教育会議ということで、教育委員の皆様方には、大変お忙しい中にもかかわらず、こうしてご参加いただきましたことを、まずもってお礼を申しあげたいと思います。ありがとうございます。

過去3回の総合教育会議では、私どもと教育委員の皆様方との真剣な意見を時にはぶつけあって、これからの子ども達のためにどういった教育環境を整えていくかということ、ご承知のとおり議論させていただきました。先般は別府学などについても議論させていただき、別府学の教材も出来上がりまして、子ども達だけでなく保護者や地域の皆様にも大変評価をいただき、すごく良かったのではと思っておりますが、これからは、今日のテーマでございます「全国学力・学習状況調査の結果等」も皆様と議論しながら、子ども達に確かな学力を定着させていくことが、何よりこれからの将来を見据えたうえで必要なことだということ、最も基本的なところではありますが、ここをしっかりとデータを見つめながら確実にやっていく。何故良かったのか、何故悪かったのか、ということ、しっかりと状況分析をしながら、現場でのマネジメントを含めてやっていかないと、これは大変な状況になるのではないかと、という危惧もありますので、皆様方にご意見を頂いて、私どももしっかりとそのことを把握したいと思っております。皆様方にこれからの別府市の教育を作っていただける、そういった総合教育会議の場にしていきたいとの思いもありますし、是非この今日の総合教育会議がこれからの子ども達にとっての、将来を見据えた素晴らしい話し合いの場となることを心から祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

### ○本田総務課参事

これより議事に入ります。

別府市総合教育会議運営要綱第3条に、市長は議長として会議の議事進行を行うものとすると規定されていますので、以降は、市長に議長として議事を進めていただきます。

### ○長野市長

ただいまより、私の方で議事を進めさせていただきたいと思っております。

別府市総合教育会議運営要綱第6条第2項に規定されておりますので、今回の議事録署名につきましては、寺岡教育長をお願いしたいと思います。

今回の議題でございますけれども、先程も申しあげましたが、学力に関することでございますので、別府市総合教育会議運営要綱第4条第2項に規定されております関係者の出席を求めています。関係者といたしまして、福田青山中学校 校長先生、平

野北部中学校 校長先生、森南小学校 校長先生においでいただいておりますが、この出席につきまして、皆さんいかがでしょうか。

(意義なし)

それでは3名の関係者の皆さんに着席をお願いします。

それでは、議題1の「確かな学力の定着について」につきまして、学校教育課長よりお願いします。

#### ○姫野学校教育課長

学校教育課長の姫野でございます。10分程度でご説明申しあげたいと思います。

資料の2ページをご覧ください。ページと共にスライドにも番号を打っておりますので、スライド番号も確認をお願いします。資料の番号と実際に前に映っているスライド番号にズレがございますので、大変申し訳ありませんが、ご了承ください。

では、資料の2ページです。下のスライドになります。本日の説明内容ですが、一つ目として「全国学力・学習状況調査の結果及び分析」、2点目として、その結果分析から、「市教育委員会として目指す目標をどこに設定しているか」、3点目として、「その目標達成に向けて今後どのような対策をとっていくか」、この3点でご説明申しあげます。

3ページをご覧ください。説明の前に、学力に係る目標として現在掲げているものを確認させていただきます。別府市総合計画の後期基本計画及び別府市教育行政基本方針では、いずれも目標として「全国平均正答率」と同じ又はそれ以上ということで、全国の平均正答率を目標としております。

次のスライドになります。3ページの下です。全国学力・学習状況調査の概要となります。ここは割愛をさせていただきます。4ページをお開きください。上のスライドが別府市の状況でございます。後ほど詳しく申しあげます。全国調査の結果を数値で示したものです。▲はマイナスを示しております。

5ページの上のスライドでございますが、2年連続全国平均正答率を上回った学校です。県内の状況になっております。では、全国調査の結果を少し詳しく見ていきたいと思っております。まず、小学校ですが、本来であれば折線グラフで表す数値ではございませんが、見やすくするためにあえて折線グラフで表しております。小学校は全ての項目において、全国平均正答率を下回っている現状であります。算数はA知識、B活用とも4年連続して下降している状況であります。

6ページをご覧ください。中学校は、今年度国語のA・Bが全国の平均正答率を上回りました。数学は若干全国の平均正答率に達しておりませんが、直近4年間で改善傾向が見られ、ほぼ全国平均正答率に近い状況ということになっております。このような小・中の現状を学校ごとに見たのが次のスライドでございます。▲は先程申しました全国比マイナスのところですが、上から下に各学校が並んでおりますが、年度ごとに学校名は伏せておりますが、入れ替りがありますので、一番上にある学校が常に一番上にあるということではありません。小学校の現状を見ますと、全国平均正答率は、赤い線より上の学校が5校に対し、達していない学校は8校と多くなっております。また、上位校と下位校の差が大きいのが、小学校の現状です。

中学校ですが、7ページの上のスライドです。年度によって凸凹があり、全県的な

中学校の特徴です。平成29年度、別府市では4校が全国平均率を上回り、3校が達しておらず、上位校と下位校の差が小さく、平均値に寄っているのが中学校の現状であります。次のスライドは今申し上げたことを再掲しております。

8ページをご覧ください。このような現状から、別府市の教育委員会として目指す目標、全国平均を達成するためにはどうすればよいかということで考えました。中期目標が今から7年後、短期目標が今から2年後と考えております。2024年、平成36年度は、まず県内の市町村順位において、上位が確保できるということを目指したいと考えております。短期目標としては、全国平均正答率を上回る学校を、小学校8校、中学校5校を目指しています。これが達成できれば、全国平均もクリアできると考えており、分かりやすい目標を設定いたしました。下のスライドをご覧ください。このような目標を達成するために、対策をどう考えているか、でございます。対策を考えるときの考え方として、3つあります。まず、1つ目は、課題のある学校及び教員の指導力への重点的な人的支援・物的支援の投入。2つ目は、成果の出ている学校の特徴的な取組への人的支援・物的支援の充実を市内全域に広げていくということ、3つ目、これはどちらかということ行政より学校になりますが、分かるまで、できるまで指導することを徹底していくこと。この3点を、大きな方向性として各施策を考えていきたいと思っております。

では、具体的なところを申し上げます。9ページ上のスライドをご覧ください。なお、申し上げるもののなかに、予算を伴うものがありますが、財政担当課や議会と協議を経て決定するものでありますので、私が申し上げることは今時点での構想ということでお受取りいただければと思います。

まず、(方針1)における中期的取組として、課題校は若手・中堅教員の指導力向上に向けて指導者を派遣する。校長のマネジメント力向上に向けて専門家を派遣する。内容のところに書いておりますが、県教育委員会関係者、大学教員など、管理職に対してマネジメント診断を行うことができる指導者を派遣していきたいと考えております。平成31年度の予算化を構想しております。下のスライドをご覧ください。(方針1)に関しては、短期的な取組として、学校間格差の解消に向け、課題校へ指導主事を重点的に派遣するというもので、これは今年度第1回目の派遣を終えているところであります。指導・支援の視点というところに記載しておりますが、特に、授業改善の5点セットや学力向上プランといったマネジメントツールがきちんと児童生徒の学力状況に対応したものになっているかどうか、全教職員がきちんと確実に取り組んでいるか、短期のPDCAサイクルをまわしながらやっているかどうか、こういったところを指導主事が見て支援する取組をしているところでございます。

10ページをご覧ください。これは方針1・2両方にかかわるところですけれども、同じく短期的取組といたしまして、児童生徒の学力により結びつく補充学習教材の導入を推進していきたいと考えています。内容にあるとおり、実際に成果の上がっている学校がたくさんありますので、その学校が実際にどのような補充学習教材を使っているか研究を進めていきたいと思っております。それから、全市どの学校でも同じ共通問題を活用して、指導改善のPDCAサイクルを確立するというところで、例えば市の独自テストが1回1月にあってますけど、例えば、これを複数回実施して短期でPDCAをまわしていく、そういったことも研究していきたいと考えております。平成31年

度予算化できればと考えているところでございます。

下のスライドです。(方針2)に関するのですが、まず中期的取組といたしましては、成果の出ている学校の特徴的な取組への財政支援を充実するということが、義務教育ですので一律とか横並びということも大事なことだと思いますので、最低限のところは保障しつつ、各学校の独自性や創意工夫、こういったものを期待して支援をしていきたいということで、内容のところを書いておりますけれども、成果の出ている学校の取組を推進するための財政支援、それから、成果は出ていないが今後期待される取組を組織的に推進しようとする意欲のある学校、こういったところにも支援をしていきたいと考えております。これも同じく31年度予算化を目指せばと考えているところでございます。

11ページをご覧ください。今度はどちらかというと学校に寄せた話になりますけれども、(方針3)中期的取組です。子どもの学力に直結する校内研究への転換を加速化するということが、現在授業改善を進めていただいているところでございますが、内容のところをご覧ください。教育実践研究発表会を実施しております、今年もこのあと緑丘小学校さんに発表いただきますけれども、これを再編したいと思っております。約7年に1回学校に割り当てがきて、その前3年間取組をしていただきますけれども、これを思い切って廃止して、校内研究で普段取り組んでいることをPDCAでまわしていますので、自主的に2年に1回とか毎年とか研究発表していただいて、大きなことを時々やるよりも小さなことをコツコツ積み上げていくと、そういった事業にモデルチェンジしたいと考えております。現在もう指定されている学校がありますので、その学校には継続的に2年次・3年次をやっていただく。

ですから、これが決定すれば1年次の指定が順次なくなっていったら、32年からすべてが新しいモデルへということを考えております。(方針3)学校の話ですけれども、4点あげております。これは今までもやっていたことですが。調査結果を受けてもう一回取組を考えていただくということ。それから、調査問題を活用いただくということ。そして、調査問題を活用して先生方の授業を見直していただくということ。家庭・地域と協働して取組を進めていただくということ。こういったことを一層進めていきたい、そのための支援をしていきたいと考えております。なお、今教育委員会や学校中心のお話を申し上げましたけれども、全国調査の質問紙の中で別府市の子どもたちは、1日あたりの学習時間が1時間未満という子どもが小学校で高いんですね、中学校は低いんです。勉強時間が長いということです。それから、読書時間は、小中学校ともに10分未満の児童・生徒の割合が全国よりも県よりも高い傾向にあります。読書が足りない。そういった現状、それから、協働に関しては、小中学校とも別府市はよく協働していただいている、こういう傾向がありますので、各学校におかれては家庭地域とも連携を進めていただいているところだと思いますので、またそういったことを視野に今後の取組をご協議いただければと思います。以上、私からの説明でございませう。

#### ○長野市長

それでは、質疑に入りたいと思いますが、今日は委員の皆さんにご発言いただきたいと思っております。福島委員。

### ○福島委員

前から教育委員会の中で話しているんですけども、点を上げるということだけ考えれば、できる人のノートを借りて、アンダーラインのところだけ一生懸命覚えればよい。点を取ろうと思えば、卒業しようと思えば、免許証を取ろうと思えば。そういうアンダーラインが引かれたノートを借りる。そしてアンダーラインのところだけ一生懸命覚えれば、点が取れた訳です。そんなやり方もひとつあるんじゃないかと思いましてね。いい先生のアンダーラインというか、そこからいつもいい成績を受け取る子どもたちの先生というのは、いいアンダーラインを引いてますからね。そこだけ覚えさせれば、点だけは取れるんですね。

あとですね、私はだいたい数学が好きなんですけれども、数学というのは最初に数式があったりとか、文字があったりとか、そんなのではなくて最初に絵がありきなんです。例えばですね、ジェット機の飛行なんていうのは、めちゃくちゃ難しいんですね、数式でやるとなると。だけど絵でやれば非常に簡単で、絵を描いた上で数式を置くようなやりかたをするわけです。もっと簡単に言うと、ピラミッドの高さを測る時に、ピラミッドがあって、太陽の影があって、そういうことからいけば、絵なんていうのは非常に簡単に理解できるんですよ。だから、教える時にりんごの絵があっても、ピラミッドの絵があってもいいんですけど、絵から入っていくようなことをしないとですね、言葉だけで覚えるとなかなか大変ですよ。数学もだんだん小学校から中学校、中学校から高等学校といくと、絵がないで数式だけ覚えていくのはものすごく大変ですから、絵がありきで、いろんなことを教えるような仕方をする。絵がありきで数学を教える、絵がありきで国語を教えるとか、そんなことを私は持論として持っているんですけども、先生方はいっぱいいらっしゃいますから、どの仕方が一番いいかというのは、それぞれでありますけど、私が今までやってきた勉強の仕方というのは、そんな仕方でもってやるとクリアしてきたので、もしこのことが自分に合っていると思えば、そんな絵から入ることを学習指導していくと、うまくいくかもしれません。

### ○長野市長

はい、ありがとうございます。非常に貴重なご指摘だったと思います。まあ工夫という点においても、そういう工夫をしてやっていくということで、やっぱり点数は取らないといけないと思うんですよ。では、高橋委員さん、どうでしょうか？

### ○高橋委員

私事を申し上げますと、去年の4月からうちのほうで毎月1回子ども食堂をさせていただいております。私は子どもと一緒に食事をさせていただくということが第一の目的でしたけども、その食事が終わった後、夕食が終わった後、保護者が迎えに来るまでの1時間、ここで、学校の宿題でもいいから何かその時間ができないかな。あるいは、今日学校であったことをいろいろ話し相手になって聞かせていただく、あるいは、アドバイスができる、そういった時間に活用できないかなと考えていたんですけど、30人ばかり毎月集まって来ますけど、子どもたちに意向を聞いたら、「ご飯を食べた後に勉強したくない」という子どもの本音が聞けたんです。やっぱりあの

時間ってというのは、子どもにとって勉強から離れたい時間なのかなと思ったんですけども、そこで例えば、小学校低学年の児童の皆さんに本・図書を与えてあげるとやっぱり静かに読んでいる子どもさんがちゃんといらっしゃるんですね。そういうところからすると、やはり勉強するって楽しいんだよということをも身につけさせる習慣も家庭でもやっていかなきゃいけないのかなという思いを持っています。

そこで、少し長くなりますけど、先般豊後高田のほうで大分教育の日推進大会がございました。そこで田染中学校の生徒の方の発表を聞いたんですけども、これはまさに今別府が始めている別府学というものの姿だろうと思いますし、それから、以前から広島市がやっていたんですけども、やはり地域を取り込んだ子どもの育成、まあ勉強も含めてですね、昔あった寺子屋みたいな、そういうものを各公民館というものが取り組んで、率先してやっていらっしゃる。豊後高田もそういったものがありましたけれど、私はそこからやっぱり別府市民ひとりひとりが先生であろうと思うんです。学校に行けば学校の先生方がいらっしゃいますけれども、学校から下校した後はそれぞれ地域に戻る、家庭に戻る、そこでやはり親も先生だし、地域の方も先生だという別府・町・別府市が全体となった教育の町といいますか、そういったものの必要性を感じておりますので、何か別府の大人の皆さん方が子どもたちにそういう手を差し延べられないかなと、だから生涯学習も非常に大事でないかなと、そういう教育の土壌づくりって言うんですか、そういったことも大切なことではなかろうかなという思いがしております。

#### ○長野市長

はい、ありがとうございました。今高橋委員さんが言われたのは、子どもたちがわからずに先にいくんじゃなくて、わからせて先にいくというか、さっき教育目標にありましたけども、そういったところに非常に役に立つというか、成果を上げるのではないかなと思いますし、ぜひこういうことも検討していくべきかなと思います。明石委員さんお願いします。

#### ○明石委員

私は学力調査を見て、今非常に素晴らしい目標を掲げておられるんですけど、いつも思うのは、義務教育ってというのは機会均等を謳っている、だから義務教育の機会均等必ずこれを維持していかないといけないんですけども、実際にこういう学力テストをしたら、特に小学校は別府市は学校差が非常にあるというのがですね、どうしてこういう差が出たのかというのをですね、中学校はそうない、小学校は差がある、これが本当に学校の差なのか、それとも学校も含めた地域全体の差なのか、そして、福島委員さんとか高橋委員さんも言われたように、もうすでに「賽は投げられた」というか具体的にどうするかということを実際に考えていかないと、学校差って言ってしまったら子どもたちがかわいそうだと思うんですよね。今から社会に出て、大学受験して、やっぱりある程度の点数は市長さんも言われたとおりに取らないと。我々受験で言われていたのは「1点を笑うものは1点に泣く」と言われてですね、1点でも多く取らんといかんというような、ある程度の最低限の試験制度がある現代では、やっぱり点数は取らないといけない。その取り方っていうのも大事だろうと思います。それと

僕が一番ショックだったのは、小学校の算数で活用というのが最低なんですよね。どの問題も低いのかと思ったら、月の大きさが最小の大きさと最大の大きさの月の大きさを1円玉と100円玉と500円玉でどれに近いかっていうのがすごく悪かったです。算数っていうのは、ただ計算を教えるのではなくてなぜ結果が14%なのか。月の大きさが最大と最小で14%の差がある。だから100円玉を最小にしたなら500円玉と100円玉の大きさはどれに近いかっていうその14%の差っていう意味をやっぱり教えないと。やっぱり僕が学力調査で一番重要視しているのはBですね。活用。この正答率が低いのがちょっとショックです。以上です。

#### ○長野市長

はい、今明石委員が言われたことに関しましては、先ほど私冒頭でも申し上げましたけれども、特に小学校の段階で全国から置いていかれるだけの差があるっていうのが、これはもう私はおかしいと思います。なぜそういうことになっているのか、どうしてそうなったかという現状がなぜわかっていないのか。わかっていないと解決のしようがないというところなんですよね。

ですから、そのあたりをやっぱりしっかりやっていく必要があると思うんですけれども、森先生、小学校の状況として全体的にはいかがでしょうか。

#### ○森南小学校長

全体的にと言いますと、一番の問題は一人ひとりの学習意欲だろうというふうに思います。

学校間格差は、ある程度は地域間格差がどうしても関係していると思います。別府市全体で就学支援の割合がかなり高いですが、地域によっては三分の一を占めてる学校もあれば、あまりないという地域もあるというのもまた現実です。

先般、新聞にも学習支援が多いお子さんにおいては、読解力が低いという統計の結果も出ていた記事も見ました。ただ当然ながら、どうやってその力を高めるのか、意欲を喚起するにはどうしたらいいとか、実際にはコミュニケーション力自体も高めないと、自分だけですべて解決できるわけではない。これから重要視されるのは、コミュニケーション力ですね。主体的であって、且つ、相手と対話する力がなければ、そこに思考というのもし生まれてきませんから。だから、どの学校も今学習意欲をどう喚起しようか、コミュニケーション力をどう喚起しようか。でも底辺として基礎的、基本的な知識をきちんと押さえないといけない。さらに、活用力を高めないといけないというその部分を段階的に、具体的には実際取り組んでいる訳ですけども。授業は楽しい、授業はわかる、ではわかったものができるようになる、じゃあどこで定着を図るかっていう話になろうかと思います。先ほどから出ている家庭学習というのは、やはり我々大人でも何かの講習に行ったり、免許取ろうとすると、家に帰ってそれを復習して、試験に臨むというのが一般的なパターンだと思います。そういった形で家庭学習をどう定着させるかというのは、ある意味大きな問題だなと思って、どの学校も、どうすれば保護者の方に、お子さんに関心を持っていただけて、そういうことが可能になるかっていう、そのへんはちょっと学校によって取り組み方が変わってくるんじゃないかと思います。Aという学校ではこの方法が、Bという学校ではこのほう

がいいというふうに若干内容が変わってくるかなと思っています。

○長野市長

はい、そういう学校間格差、地域間格差があるという中で、どういうふうに具体的にそれを改善させていくかということをしないと、やっぱりさっきの目標なんていうのは到底達成できないということだと思います。そのあたりはちょっと後にさせていただいて、小野委員さんよろしくお願いします。

○小野委員

皆さんがここにあるように実行できれば、それは現実の学力がすごく上がって素晴らしいことだと思います。ただ、私が子どもを育てた時に感じたことは、子どもってというのは、机に座って勉強するっていうか、きちんと勉強しようというのではなくて、ちょっとした合間に宿題をやったり、復習をやってるんですね。そういう時にやはり人の居る前でやるわけです。ですから、そういう時に声をかけてほめてあげる。黙々と勉強するのが勉強ではなくて、ちょっとした合間でもやってほめてもらいたいから、わざわざテレビを見ながらでも勉強するわけですね。そういう時に子どもの気持ちになってほめてあげて、家で学習することも見守ってあげるというか。

私が望むことは、そういうふうに学校とか先生方、行政で一生懸命勉強するようにして下さるんですが、懸命に勉強する子どもが主役であるっていうことを大事にされる学校でない子どもたちもついていけないと思いますので、それをお願いしたいと思います。

○長野市長

はい、ありがとうございます。では、最後に寺岡教育長。

○寺岡教育長

小学校の学力調査の結果、もちろん中学校もなんですけれども、学力の知識と活用が全国の平均正答率に達していないということで、先ほど委員の皆さんからもありましたが、やっぱり習ったことはきちんと定着して次の学年に上げる、中学校に上げるというのが目標でございます。

市のほうからも、なぜそうなっているのかっていう、その原因は各学校の先生方もつかんでいる場合と、なかなか方法っていうのが一人ひとりの先生、あるいは学年で定着してない、できてないというものも学校間格差を生んでいるということをよく聞きます。また、生徒指導、生活指導がうまくいかず、学級が落ち着いてないっていうのは、やはり平均正答率がかなり下がってきます。

ですから、やはり日ごろの学級の一人ひとりの子どもたちが安心できるような先生がいて、安心できる友達がいて、そして、さらに学力が定着していくと。そのような学校をまず第一に作り、そしてあとは、わかってない子どもたち一人ひとりの学習プラン、そして子どもたちの補充的な学習の組織力、そしてまた地域の方たちの力を借りる、というようなところがあるかと思っています。

今日出席されている校長先生方にとりましては、子どもたちの家庭状況を把握する

難しさだとかいうこともあろうかと思えますけれども、今日その具体的なところを出していただいて、全市の小学校・中学校で同一歩調をもって、子どもたちの力を伸ばしていけるような具体的な方策をぜひ共通認識としまして、ぜひ使命と義務感とを持って進められればと決意を新たにしているところでございます。

○長野市長

はい、ありがとうございました。それでは、あと2人中学校から先生がお見えでございますので、どちらからでも結構ですが。じゃあ、平野先生。

○平野北部中学校長

先ほど8ページのところで、課長のほうから分かるまで、できるまで指導することの徹底という文言に、本当に校長として、先ほどから考えていました。実際、北部中学校ですけれども、得点としては上がりませんでしたので、職員みんなで実際に問題を解いて、それがほかの教科でも数国に限らず、どういうふうに授業改善を進めなくてはいけないのかというところで、話し合いをしました。悔しさもあり、恥ずかしさもあり、指導の情けなさもあり、そういう共通認識のもとに講義調の一斉の画一的なものとはにかく脱却する方向で、思考力を高める言語活動をということで今取り組んでいるけれども、実際に低学力の子、低得点力の子を救えていないというところの現実には変わっていないので、そこに具体的にどうするかという話をしていった時に、家庭に不安定な要素があったりという現実はありますけれども、それよりは指導法の課題を解決というところで話し合いを持ちました。私も解きましたが、活用の部分では本当に読解する力がないと、いったい何を問うているのっていう子どもはその後ずっと全部答えてないから、点は上がっていません。わかる子はずっとわかる、ということで、図書館教育を含め、読書を含め、どう問うているのかというようなところを、つまり読解の力を高める方策を、他教科でも解決策を練っているところであります。一言で言えば、補充はできていないという課題が明らかですので、中学校の場合、部活等があってもどうしても時間も必要です。いつ、どこで、だれが、どういう補充をするのか、というようなところで苦慮していますが、そこにメスを入れない限りはダメだということで、最終的には徹底できていないという結果で、徹底をしよう、そういう自覚と責任が必要であるというところで、今取り組んでおります。そういうところであります。

○長野市長

はい、ありがとうございました。それでは、福田先生、お願いします。

○福田青山中学校長

個人的な意見になりますけど、成績だけを見ても、あらゆる要素がものすごく含まれていると思います。たまたま青山中学校に行ってから今の2年生、3年生はすべてクリアでプラスになってますが、先ほど学校教育課長のほうからもありましたけど、各年でやはりその学年で格差があるんですね。各年比較も必要なんですけど、同一の子どもたちを小学校3年生から継続的にどういうふうな状況で伸びてきたかというよ

うなことをやっぱり分析していかないと、中学校の3年間だけを見てもなかなか結果だけでなく、小学校の部分からこういう定着状況調査等がありますので、継続比較でどういう指導をどういうふうな形ですか、この学校はこういうふうな特徴があるという形でつかんでいかないと、なかなか難しいと思っています。特に、学力だけと言っても、先ほど教育長さんも言われましたけれども、中心になるのは校長のリーダーシップによる学校マネジメント、これが具体的に学力向上に対するということが確かにあると思うんですが、その中でやっぱり生徒指導の問題もあります。それから教職員の資質の関連もやはりあります。家庭状況によるものもあるんです。確かにこれによって不登校の解消がやっぱりできないということも含まれています。それから、地域の協力とかPTAの協力をさせていただくという形を、すべてを含めてうまくいっていると、ある程度の結果が出てくるなというふうに考えています。ただ、具体的にまず学校においてしていかないといけないのは、やっぱり自分たちの資質、それから具体的に授業をどういうふうに改善していくかということで、教育委員会の指導ももちろんありますが、校内でもやっています。少なくとも、先ほど一番最初に福島委員さんが言われましたけど、やっぱり要領のいい子、つまり、どういう問題に対してどういう考え方をしていくかということとはものすごく大事だと思うんです。基礎と活用の違いはそこにあると思います。活用の部分を上げる為には、やはり多くの問題を経験させないとダメだと思う。そうすると活用の問題を先生がよく知らないで対応、対策できるかということ、今捉え方がやはりありますので、その辺のところをしっかりとやっていこうと。

それともうひとつは、継続的と言ったら問題があるんですが、やっぱり英語、数学なんかは中学になって格差が非常に大きくなります。だから、中2の段階でうちは少人数指導、習熟別の指導をやっているんですが、そこで少しプラスにしていくようなつもりでいかないと、やっぱり差が大きくなります。学校間格差もやはり小学校で一番差がつき始める学年が、僕の想像では3年生ぐらいからあるんで、3年生ぐらいを少人数に分けて低学力層と、しっかりやっつけられる子どもたちを習熟度に分けて補充していくような形を、これは人的な配置になるかもしれません。だけど、小学校の区分で大きく差がつくと、中学校の3年間というのは意欲も無くしてしまって、格差が大きいとなかなか追いつかないというのも現状だと思いますので、それも含めた9年間を見据えた課題、課題ははっきりしているので、どこに力を入れるかという形で、すべてが入ればいいんですがなかなかできないので、そういうところに力を注ぐべきかなと。これは個人的な考えですが、そういうふうを考えてお話を聞いておりました。以上でございます。

#### ○長野市長

はい、ありがとうございました。今の皆さん方のご意見をお聞きした上で、さらにご意見があるという方がいらっしゃったら。

#### ○寺岡教育長

各学年の学習の項目、いわゆる単元ですね。単元がどの程度定着しているかという

ことについては、各学級担任が把握していると思うんですが、それは学校間で試験問題が同レベルなのか、それとも、特に中学校の場合も英語の試験なら英語の試験を各学校で見たら全然内容が違うとか、そういう一定程度の同じ問題で先生、学校同士で比べながら高めるとか、そういうものは小学校の場合でも単元テストとか、いわゆる節をきちっとおさえて、もしわからない子どもさんがいたら習熟度別とか個別指導とか、または家庭とか、そういうことも考えられると思うんです。その点はいかがですか。

#### ○福田青山中学校長

中学の場合はですね、これは中学に限ると思いますが、夏の教育課程の研修等にはですね、1学期の時に行った授業におけるテストの問題等を各教科で持ち寄って、その中でレベルをある程度そろえるというのがひとつあります。定期テストの交換等はありませんが、先ほど挙げました学力テストであったり、市の学力テスト、それから全国・県の、そういう形の中でどうしても範囲等がきまってくるので、そこで一定のレベルというのがあります。それから3年生になりますと出口がどうしても決まってくるので、中3学力調査等が8月と11月に、土曜日にありましたけれども、そういうところでレベル的なものとしては調整していくような形になるかなと思っています。

#### ○森南小学校長

小学校のほうですけども、統一したものは形としてはないです。ただ、市の学力調査が毎年ありますので、それに向けてという形になりますので、基準ベースはそこにあると思います。昨年までこうだったからここまでという形で、当然みんなの指導法があります。小学校の場合は1年から6年まで1人の担任が国・算・理・社・図工からすべての教科をする形になっておりますので、達成指標という形で小学校の場合は単元ごとのテストで、例えば、中学年は80点以上にする、高学年は75点以上にするとか、50点未満は何割以下にするとかいうような形の達成指標を設定していますので、それに向けてステップを踏んでいくという形が今のところ一般的なのかなというふうに思います。

#### ○長野市長

皆さん方からのご意見をいただいてですね、さっき言いましたけれども、何でこんなに小学校は全国より悪いのか、逆に中学はいいところもある。まあ国語はいいとか、若干数学に関しては悪いところもありましたけれども、改善傾向にあるというところで、じゃあなぜいいのか、というところも具体的に聞きたい訳ですね。というのは、そこがわからないと対策の施しようがないというところがあるので。具体的にそれに対してどうすべきかということをお話を講じて、今から取るべき点はきちり取っていくと。福島委員も言われたように要領のよさも含めてですね、さまざまなやりとりをやっていかないと、やっぱり点は取れないと思います。点が取れないということはこの世の中で、先に進んでいけないというのが現状としてありますので、それをどう取っていくかということに関しては、寺岡教育長にも教育委員会にも、しっかりそこ

はお金もかけるし、人も入れるということを私ははっきりと明言しています。ただ、やっぱりちゃんと分析して、マネジメント能力を発揮していただかないと、今回のような学力テストでも、どこがどれだけ格差があるのか、例えば、私は住んでるのが朝日なので、朝日はいいのか、悪いのかというところは、保護者の方たちは知る由がないというか、知る術がないんですよ。

学校間の順位としてはわからないわけですよ。親からしたら、ここの学校は教え方がいよっていったら、正直今のところが悪ければ、そこの学校に行かせたいと思うかもしれないです。それは自然な発想だと僕は思うんですよ。だけど、今行けないわけですよ。だったら、通学区の自由化をちゃんとやるべきじゃないかというふうなことも、実は僕は思ってますし、それがダメなんだったら、やっぱりきちんと平均的な点が取れるような、やっぱりきちんとした対策を、私は市全体のマネージャーですけど、学校の先生方はその現場現場で、うちはここが悪いからこういうリソースを集中してほしいということをはっきり言ってくれないと、なかなか解決策も見出せないし、何をやっていいかわからないです。で、毎年毎年イメージとしては、今年は悪かった、今年はよかった、と言ってずーっとここまできてるわけですよ。それぞれ学校で取り組みをやっていただいていると思います。だけど結果が出ないことには、私たちもそうですけど、結果を出せっていうのは私たちの社会では常識だし、それはもう教育委員会でも例外じゃないと思います。じゃないとそれぞれの学校の順位をちゃんと発表して、いいところに行かせたいという、その権利を今どこにでも行けないわけですから。その権利を奪っている以上はやっぱりそれぞれの学校が平均的にやっぱりがんばらないといけないというのは、あたりまえの世界だと私は思います。

で、今いろいろな課題が出たわけですよ。で、この課題を具体的にきちんと教育委員会の中で政策としてまとめていかないといけないと思うんですね。それを今後どこまでまとめて、またこの総合教育会議をいつ開いて、どういうプランを立てるかということが私は大切なんだと思うんですけど、その点は何かご意見ありますか。

#### ○寺岡教育長

さまざまな意見をいただきありがとうございます。最後に市長が仰ったとおりですね、義務教育ですので、どこの学校に行っても一定水準の教育が受けられるべきであります。親、子どもは学校を選べないという状況が原則ですから。ですから、今ご意見いただきましたとおり、それから私たちが申し上げましたとおり、こういう施策をですね、行っていきたく思いますけども。事業年度自体は割と短期で2年後に実施ということになっておりますので、年度内に教育委員会等で協議して委員の皆様方にご検討いただいて、方向性を出して、もう1回次の総合教育会議の中でご提示できればと思っております。スピード感を持ってですね、施策に反映させていきたいと思っております。

#### ○長野市長

それは年度内にもう1回できますか。

○寺岡教育長  
年度内にもう1回。

○長野市長  
来年度に向けて。

○寺岡教育長  
はい。

○長野市長  
その時に具体的なプランを提出。

○寺岡教育長  
はい。

○長野市長  
はい、福島委員。

○福島委員

何度も言いますが、絵で教えるのが、一番いいんですよ。絵から入るとですね、非常にわかりやすいから具体的にはですね、誰でもいいんですけども、もし試される方がいたらですね、そういうふうに数学を教える時、国語を教える時、英語を教える時に絵から入るとですね、みんなそうやってほしいとは言いませんけど、私がやってみようという人が手が挙げればですね、ぜひ絵から入るといって教える方をですね、少なくとも私は絵からでないとなんかやっぱりわからないと思います。だから、何でも絵にする、何でも絵から頼る、都市計画でもそうですし、別府市をどうするかということも絵から入りますし、東京をどうするかということも絵から入ってますから、だから、絵から入るといってのはとてもわかりやすい教え方だと思いますから、どなたか試される方がいらっしゃれば、ぜひ試してほしいと思います。

○長野市長

試験的にでもそういう取組をぜひ、福島委員さんにちょっと教えていただきながらやっていくと。取組としては、すごくおもしろいチャレンジじゃないかなと思いますので、ぜひ検討のひとつに加えていただければと思います。

○寺岡教育長

最後に、9ページにあります資料に、当面先生方と一緒に共有したいことは、授業改善の5点セットというのがございます。それと、先生方がそれぞれの学校の必要に応じて、学力向上プランをまとめます。このプランを全教職員がまず取り組んでいるのかということ、短期で自分たちのプランを検証、解析しているかということが徹底されているかどうかを、校長先生方と一緒に共有しながら、支援しながら

ら、とにかくきちんとやっているかどうか、全員の先生がですね、そこに格差がある  
とどうしても学校の方が弱いと思います。そういうところは当面、来年の1月にまた  
市の調査がありますので、どの程度の格差かというのを一緒になって見たいと思いま  
す。

○長野市長

はい、その他はよろしいですか。

では、次の年度内に行う結果連絡の時には、具体的なある程度のアクションプラン  
みたいなものをしっかりお示しをいただいて、PDCAをしっかりとまわしていけるよ  
うお願い申し上げます。

それでは、次にいきますが、議題（2）その他であります。その他について何か事  
務局からありましたら。

皆様からその他の議題でありましたら。その他もないようでございます。以上で議  
事を終了とさせていただきます。ご協力をありがとうございました。

○本田総務課参事

御協議ありがとうございました。

これを持ちまして、平成29年度第1回別府市総合教育会議を閉会させていただきます。

本日は御参加いただき、誠にありがとうございました。